

## 連携医療機関のご紹介

やまざき小児科 山崎 恒 先生



阿賀野市やまざき小児科の山崎です。

当院は平成15年10月に開院しました。この16年の間に小児の医療環境は随分変化がありました。治療面では喘息などの治療に著しい進歩があり、入院をお願いしなければならないお子さんはとても少なくなりました。また、定期予防接種が大幅に増え、新たなワクチンの導入も進みました。世界基準にようやく追いつきつつあり、化膿性髄膜炎、ロタウイルス胃腸炎や重症水痘などは激減しました。しかし、集団生活開始の低年齢化、スマートフォンなどの情報通信機器の発達や社会のグローバル化に伴い、子どもの健康管理は新たな課題に直面しています。ますます進む少子化の流れの中で、それぞれのお子さんの環境により適した提案ができるように努めたいと思います。



あがの八雲苑 施設長 高野 友丈

あがの市民病院には、当施設の特養あがの八雲苑開設時から協力医療機関として連携して頂き、ご利用者の皆様の診療・治療等に大変お世話になっており厚く御礼申し上げます。平成29年10月5日に発足した「あがの介護・病院連携の会」は、今年8月1日で12回を重ねています。出来る限り参加させて頂いているところですが、病院と介護施設等との連携強化は、入院されている方、施設に入所されている方々や在宅などで病魔と闘いつつ、また介護に携わっているご家族の皆さんの希望の力になっていると思います。入院先から介護施設への異動希望者も多く見られるようになり、当施設でも、医療的ケアの必要な方々の受け入れに力添えをしていきたいと日々奮闘しているところです。介護職員の医療的ケアが医師の指示の下に看護職員と連携して実施が出来る様に一定の教育と実施研修を受けると資格の取得が出来る様になりました。もちろん、資格取得には試験もありますが、介護職員が特養等で働く上で必要な医療的行為の一部ですが法律的に認められた事は非常に嬉しい事です。入院先、居宅等から介護施設への入所がスムーズになるには、包括支援センターや居宅事業所等との連携も不可欠ですし、入所後の診療等には、病院との連携も必須です。地域の皆さんより頼られる施設づくりには、病院等との連携強化が求められます。今後もご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

# あがの市民病院 スワンだより 水原まつり 民謡流しに参加しました！



雨や暑さが心配されていましたが、天候も気温も丁度いい感じで開催されました。毎年参加していますが、水原甚句の歌や太鼓、笛の音が懐かしく、心にじ〜んと響きます。沿道にも多くの方が見に来てくださり、地域のお祭りを感じられ心地よかったです。また来年も楽しみにしています。

地域医療・連携センター 金子



良質で心温まる医療を  
地域の皆様へ



あがの市民病院 〒959-2093 阿賀野市岡山町13-23  
代表TEL 0250-62-2780  
ホームページアドレス  
<http://www.niigata-kouseiren.jp/hospital/aganoshimin/>



# 医学生の実習受け入れしてます

あがの市民病院では医学生の実習を受け入れ、これから医師となる人材育成に協力しております。実際現場を体験し色々なことを感じていくようです。素敵な医師になるよう今後も協力していきます。



あがの市民病院での夏季実習 新潟大学医学部3年 山谷 英里

今回は貴重な経験をさせていただきありがとうございました。午前中に臨床検査、薬剤部、リハビリの見学、午後に訪問診療、病棟回診の経験をさせていただきました。午前の実習では普段は見られない部門を見学させていただきました。薬剤部では薬の一包化や軟膏の混合などの体験をさせていただきました。外来の時間帯であり、次から次へと処方箋が送られてきており、調剤するために時間が必要であり、患者さんが薬をもらうために時間がかかる理由がわかった気がしました。リハビリでは、患者さんの年齢や地域のニーズに沿ったリハビリ提供がなされていることを知りました。訪問診療では、病院に通うことのできない患者さんを診察できるというほかに、実際の生活環境がどのようになっているかを知るのにも効果的だと感じました。さらに医師、看護師と患者本人とそのご家族の信頼関係をみることができました。患者さんのご家族が自身の体調に関することを相談している様子も見られ、地域医療の特徴的な場面だと思いました。お一人お一人の時間をしっかりと確保し、病気以外で困っていることなども気軽に相談できることが最大のメリットだと感じました。一方デメリットとして患者さんのお宅が遠い場合、時間がかかること、また地域の医師自体も少なくまた高齢化しているため訪問診療がどうしても難しい場合があると指導医から聞きました。また実際に内科回診について回ったことで、高齢の患者さんが多いこと、その中でどれだけの治療をするかを家族の意向や状況を踏まえながら判断する必要があることを学びました。寝たきりで認知症が進んでいる患者さんも多く、家族との話し合いが必要だと感じました。今回の実習で、「地域で治し支える医療」というキーワードをいただきました。今回の実習を通して、一人の患者さんを、その家族や生活状況を含め考え、また自宅に帰すだけでなく、帰った後も見続ける医療展開がなされていると実感しました。このような地域医療の様子を頭に置きながら、今後始まる、臨床の勉強をしていきたいと思えます。実習させていただき、ありがとうございました。

## 第5回病院祭～新しい令和で考えよう、地域医療の和～

日程 令和元年11月2日(土) 10:00～

### 開催内容

- ・フリーマーケット
- ・認知症テスト
- ・骨密度測定
- ・キッズダンス
- ・AED体験
- ・JA野菜販売
- などなど

あがの市民病院を身近に感じる一日です。皆様のお越しをお待ちしております。



# 職場紹介【五頭の里】

五頭の里は、あがの市民病院に併設された介護老人保健施設です。状態が安定した要介護高齢者が対象で、介護機能訓練(リハビリ)を受けながら、在宅復帰を目指しています。入所者が安心して安全に療養・日常生活を送れるように、尾崎施設長をはじめ、看護師・介護士・リハビリスタッフ・管理栄養士・支援相談員等、多職種で支援しています。またレクリエーションでは、お誕生会や季節の催しの他、地域の方のご協力もあり、入所者の元気な声が聞かれ、施設内はとても明るい雰囲気です。入所定員は50名、通所リハビリ(デイケア定員10名)の利用も行っていますので、利用のご希望がありましたら、当施設の支援相談員にお問い合わせください。



## 藤森病院長のつぶやき

初期臨床研修医は、これまで学んできた大学病院や自身が選択した研修指定病院での患者層と、当院のような地域の総合病院でのそれとの違いに、当初戸惑っているようです。「そんなんです。」大学病院や研修指定病院は、紹介状を持った方々が集まり、疾患に偏りがあり、バイアスがかかっているのです。当院は、周辺地域の開業医も少なく、地域の総合病院ですので、「一般的」訴えや疾患に出会うことができます。臨床研修医にとっては、多くの学びを得ることができるでしょう。

